



Global Scale of English Learning Objectives

for Young Learners

日本語版





“

「若年層の学習者向けGSE学習指標は本当に画期的です。若年層の学習者を取り囲む環境を密接に反映しているので、彼らと彼らの教育に携わる人たちの学習意欲を高め、教育上ためになるようなやり方で目標を設定し、進み具合を把握することができます」

ノルウェー、ベルゲン大学、言語教授法教授、
Angela Hasselgreen

グローバル・スケール・オブ・イングリッシュの学習指標： 学習をより効果的に

本書では、若年層の学習者向けのためのグローバル・スケール・オブ・イングリッシュ (GSE) 学習指標について紹介します。この学習指標は、ピアソン・イングリッシュが長年にわたって、世界中の英語教師、ELT作成者、および言語学専門家と協力して開発してきたものです。GSE学習指標は、英語学習者の人生に測定可能なプラスの影響を与える製品やサービスを提供したいという、ピアソン・イングリッシュの使命の根幹を成すものとなっています。

英語を可能な限り効果的かつ効率的に学習するためには、学習者は次の3つのことを把握する必要があります。

- 私の英語レベルはどのくらいか？
- 私の英語は進歩しているのか？
- 長期的な目標の達成のためには、次に何を学ぶことを目標とすべきか？

この3つの質問に答えるために、学習者および指導者は、英語学習の全体的なエコシステムの一部として、以下のものを必要とします。

- 特定の習熟度「レベル」に達しているとはどういう意味か、その明確かつ正確な定義
- 「レベル」の定義に沿った英語指導教材および英語学習教材
- リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4スキルすべてにおける学習者の習熟度を測定するための評価ツール

GSE学習指標は、上述の第1点目である「特定の習熟度『レベル』に達するとはどういう意味か、その明確かつ正確な定義」というものを構成する要素となります。

“

「グローバル・スケール・オブ・イングリッシュは、パフォーマンスに基づいたアプローチによる言語の学習・指導・評価という分野において、ヨーロッパ共通言語参照枠 (CEFR) の開発以来の最も大きな進歩となるものです」

香港大学 応用言語学名誉教授 デイヴィッド・ヌナン博士

ピアソンの研究は、さまざまなタイプの学習者のニーズに合わせて行われています。この若年層の学習者向けGSE学習指標に加えて、ピアソンでは、一般英語を学ぶ成人学習者、アカデミック英語の学習者、およびプロフェッショナル英語の学習者に向けたGSE学習指標も開発しています。この分野におけるピアソンの取り組みについて詳しくは、**English.com/gse**をご覧ください。

ピアソンでは、若年層の英語教育に経験をお持ちの教師、ELT実践者の皆さまからのフィードバックをお待ちしております。どうぞ、**English.com/gse/contact**まで、皆さまのご意見をお寄せください。

グローバル・スケール・オブ・イングリッシュ

グローバル・スケール・オブ・イングリッシュ (GSE) は、英語習熟度を測定する標準化された細密な尺度です。大雑把なレベル分けて達成度を測る他の枠組みとは異なり、GSEは、スピーキング、リスニング、リーディング、およびライティングの各スキルに関して、評価尺度の各ポイントで、学習者ができることを特定します。

GSEの尺度は、学習の進歩を一歩ずつ正確に実証することによって、学習者の学習意欲を高める設計になっています。英語教師の方はGSEを使用することによって、学習者の厳密なレベルや学習指標に合った、最適な教材を選定できるようになります。

GSEは、英語学習およびその評価における世界的な基準として使用することができ、習熟レベルについての真にグローバルな共通理解を提供するものです。

詳細については、english.com/gseを参照してください。

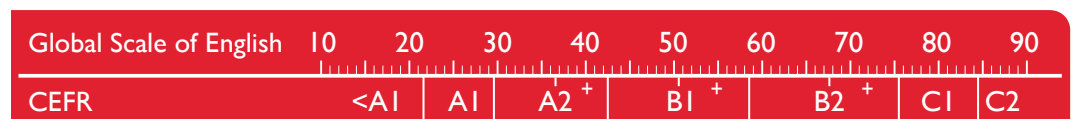
GSE学習指標はGSEに対応しており、習熟度を示す尺度のさまざまなレベルで学習者ができることを説明しています。

CEFRの若年層学習者への拡大適用

GSE学習指標の開発プロジェクトは、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR、欧州評議会、2001年) の作成にあたってブライアン・ノース氏 (North、2000年) と欧州評議会によって実施された研究を土台としています。この研究の対象となったのは大人と若年層の学習者であり、一連の学習指標を拡張して、特定の大人層に固有の付加的な学習指標 (Can Doステートメント) を含めるための確固たる枠組みを作り出しました。ピアソンでは、GSEプロジェクトの一環として、アカデミック英語とプロフェッショナル英語の両方を対象に、付加的なGSE学習指標を開発しました。

しかしながら、CEFRは最年少層を念頭に置いて作られたものではないため、多くの方が適応を試みるも成功の度合いはまちまちでした。このような背景からピアソン・イングリッシュでは、CEFRのモデルに従って新しい研究を実施し、6才から14才の学習者を明確な対象とする、習熟度を示す同様の枠組みを開発しました。

グローバル・スケール・オブ・イングリッシュそのものは、CEFRの開発に用いられた精神測定の原則および手続きに従った、CEFRと足並みの揃ったものです。さらに、若年層学習者のための新しいGSE学習指標には、この同じ尺度におけるGSEならではの価値が付加されています。このように学習者は、初等教育から高等教育、職場での学習に至るまで、年齢や発達段階に応じて、習熟度や進み具合を図で理解することができます。



ピアソンでは若年層の学習者向けGSE学習指標の開発にあたり、言語熟達度の粒度の細かい定義に対応した学習指標を作成しています。これは、教師が生徒のための明確な学習目標を確立できるようにするため、また、お子さんが何を学習しているのかご両親が明確に理解できるようにするためでもあり、そしておそらくこれが最も重要なことですが、学習者自身が、少しずつ習熟が進んでいることに気付くようにするためでもあります。どんな生徒もそうですが、特に若年層の学習者は、前進しているのが分かったとさらなる意欲がわいてきます。

若年層の学習者のための習熟度を示す枠組みの作成

若年層の学習者の習熟度を示す枠組み作成の研究プロジェクトで焦点をあてたのは、教室環境で第二言語として英語を学んでいる6才から14才までの層です。本書では、ピアソンのこれまでの研究結果を概説するとともに、進行中の研究プロジェクトの一部をご紹介します。

若年層の学習者にとって、特定のレベルの英語力に達する以前に、一定段階の認知発達に到達しないうちは多くの課題が手の届かないものであることはよく分かっています。その上、実年齢と認知発達の段階との間には単純な対応があるわけではなく、個人差があります。本書で報告する現行の研究結果は、若年層の学習者の認知発達については考慮していません。ただし、ピアソンの初期の研究では、グローバル・スケール・オブ・イングリッシュにおけるある学習指標の困難性と、子供がその課題を遂行できると教師が考える年齢には、高い相関関係があることが示されています。抽象的・象徴的な方法で思考する能力に長けていることと認知発達とが大いに結び付くものであると考えれば、また、より高度な能力記述子が、通常は具体的な課題ではなく抽象的・象徴的な課題に関連するものであると考えれば、これは直観的に理にかなっていることです。ただし、この分野についてはさらなる研究が必要です。

“

「ピアソンのCEFRに基づく、若年層の学習者が何をできるかを示す能力記述子は、若年層の学習者のアセスメントにおいて特筆すべき働きを見せます。専門家のコミュニティーにとっては、この分野の前進にどう役立つか、早速試してみるチャンスです」

ハンガリー、ペーチ大学、言語学博士課程理事、Marianne Nikolov

若年層の学習者と大人層の学習者：類似点と相違点

若年層の学習者向けGSE学習指標は、6才から14才までの、外国語として英語を学んでいるか、あるいは学校の1つ以上の科目の教育を受ける手段として英語を使用している学習者を対象としています。これらの学習指標は、学習者が英語そのものを科目として勉強しているか、他の科目の教育を受ける手段として英語を勉強しているかに関わらず、初等・中等教育の領域にいるすべての学習者に当てはまるという点で包括的なものです。

若年層の学習者向けGSE学習指標は、CEFRおよび大人層向けの3種類のGSE学習指標とは、次の2つの重要な点において異なります。

1. 開始時に既に完全な認知発達に到達している大人層の学習者と違い、若年層の学習者は、英語学習と同時に知的能力と認知能力を発達させます。
2. 母語を使用するのと同じ背景（仕事、旅行、社会生活、娯楽等）で英語を使用できる大人層と違い、子供が英語を使用するのは主に教室であり、英語が広く話されていない国で勉強している場合や、両親が英語を話さない場合には、教室が主な学習の場となります。

使用の背景：教室と実社会

CEFRの意図を受け、大人層向けのGSE学習指標の作成にあたっては、次の2つの実務的な前提が指針となりました。

- i. 学習者は一般に言語学習の目標を持ち、言語スキルを得る場所が教室であるにしても、言語スキルを実社会に適用することを目指している。
- ii. 英語を話す設定で有効に機能する能力の発達は、学習者にとって唯一の動機付けとは言わないまでも、主な動機付けの一つである。

つまり大人層の学習者を対象とする場合は、教室環境を教育とアセスメントの両方の目的で、実社会の代わりとして扱えます。大人層には既に実社会の幅広い課題を実施するのに必要な言語外の知識、経験、スキルのすべてがあります。必要な第二言語のスキルを「接ぎ木」すればよいだけです。

しかし若年層の学習者にとって教室は、少なくとも最初のうちは、実社会での言語使用の代わりとして機能するものではなく、一般的に英語を使用する主環境となります。遊びや歌などの教室での活動は、若年層の学習者にとって初期教育課程の大部分を占め（代わりとなる実社会での活動に移行するまでは）、教師は進み具合のアセスメントにあたり、こうした活動の児童の成果に目を向けることがよくあります。

初期の言語発達と「足場」

ヴィゴツキー（1978年）やウッド、ブルーナー、ロス（1976年）の時代からずっと、言語や認知の観点での子供の発達のためには、大人による積極的な支援と関わりが必要であることが、広く受け入れられてきました。教師は一般に、低年齢の子供には課題の「足場」を組み、学習のための構成と枠組みを作りますが、これは子供の能力が発達するにつれて次第に取り除かれるか解かれていきます。若年層の学習者には必要であり、大人層の学習者には一般に必要でない、こうしたきめ細かいサポートが、若年層の学習者向けGSE学習指標には反映されています。

このサポートは、子供の年齢や英語レベル、言語作業の特性に応じて、さまざまな形態をとり得ます。例えば対話劇をサポートするための段階的な誘因（プロンプト）、つまり文の完了が分かるように文と文の間が空いたテキストなどを使用します。能力記述子の中では、「サポート」や「足場」のような一般的な用語の使用を避けています。その代わり、関与するサポートの内容（例：「写真があれば」、「手本が与えられれば」）を明記するようにしています。サポートの度合いと特性が、その課題の困難性を評価する際の要素となり、その課題を実行するのに必要な英語レベルとなります。同じ課題が複数回、度合いの異なる複数の「サポート」を伴って登場することがあります。これは、若年層の学習者が着実に英語に熟達していく有様を正確に反映しています。

“

「若年層の学習者向けGSEは、学びのさまざまな道筋の中で若年層の学習者がどのように前進していくかを明確に示しています。ELTの世界において、生徒に教える側にとっても生徒を評価する側にとっても、飛躍的な進歩と言えます」

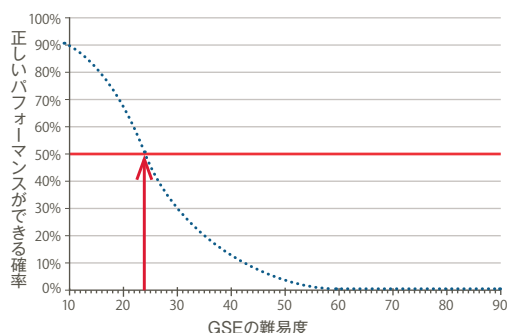
アルゼンチン、ブエノスアイレス、Lecturer in English Language Education at the IES en Lenguas Vivas
Juan Ramón FernándezおよびISP Joaquín V. González、英語教育講師、Leonor Corradi

「レベルに達している」とはどういう意味か

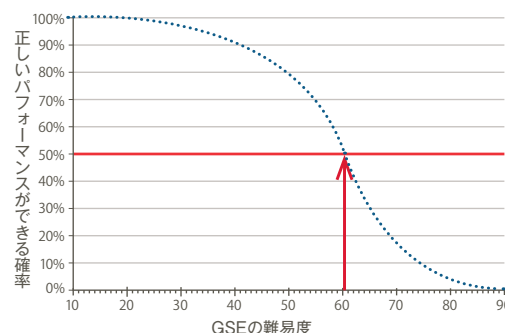
言語学習は、数学や電気工学の学習のような、1つトピックを学んだら次はそれに基づく新しいトピックが連続的に発展していく学習とは異なります。言語学習は必ずしも連続的ではありません。また、学習者は、ある分野においては豊富な実践経験があったり、特別なニーズやモチベーションを持っていたりすることで非常にレベルが高いとしても、別の分野では非常にレベルが低かったりする場合もあります。

こうした理由により、学習者がグローバル・スケール・オブ・イングリッシュの特定のレベルに「達している」と言った場合、それは必ずしも、学習者がすべてのスキルにおいて、そのポイントに至るまでのすべてのGSE学習指標をマスターしているという意味ではありません。また、より高いレベルのGSE学習指標を1つもマスターしていないという意味でもありません。尺度上の61の位置にいと生徒が評価された場合、これは、そのレベルのGSE学習指標を遂行できる見込みが50%あり、それよりも低いレベルのGSE学習指標を遂行できる見込みはより高く、それよりも高いレベルのGSE学習指標を遂行できる見込みはより低いことを意味します。言語習得は一人ひとりに固有のものです。

GSEの尺度で25の学習者



GSEの尺度で61の学習者



“

「若年層の学習者のための能力記述子は、若年層の学習者にとって不可欠なアセスメントツールとなるばかりでなく、強力な教育用のツールにもなるでしょう」

ペンシルベニア大学教育言語学准教授、他言語話者に英語を教える教師の会 (TESOL) 役員、Yuko Goto Butler

教材についての情報提供

筆者も編集者も教師もますます感じていることは、学習者を第一に考えることの必要性和、学習者のニーズと期待を反映した教授細目およびコースの策定の必要性です。若年層の学習者向けGSE学習指標には、さまざまなスキルや分野にまたがる学生の能力目標について、詳細かつ段階的なモデルが定められています。ピアソンのコンテンツの筆者は、あらゆる新しい教材および学習教材を開発する上で、基礎として若年層の学習者向けGSE学習指標を使用しています。Poptropica English (Level 2) から引用した次の例は、以下の若年層の学習者向けGSE学習指標を使用して授業と活動の目標を示しています。教科書の中核部分の作成に使用されたGSE学習指標の範囲は、教科書の裏表紙に示されています。

26 読むのと聞くのを同時に行う方法なら、短い絵本の中の簡単な対話についていける。

26 絵があれば、人の身体的な特徴（目／髪の色、身長等）を述べている基礎的な文章を理解できる。



11 Listen to the story. Read.



1



Let's find the new doctor. His name is Tim.

Is he nice?

2



Does he have long hair?

No, his hair is short.

3



Does he have messy hair?

No, he doesn't!

This is for you.

4

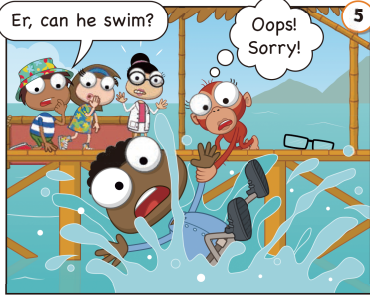


Does he have blue eyes?

I don't know, but he has glasses.

Do you have blue eyes?

5



Er, can he swim?

Oops! Sorry!

6



Hello, I'm the new doctor.

Oh! Welcome to Tropical Island!

12  Role-play the story.

GSE要約説明

以下の要約説明は、GSEの各種レベルにおいて若年層の学習者がどのようなことを識別できるそうか示しています。これらの説明は、新しい若年層の学習者向けGSE学習指標の等級分けを行った教師陣が土台として使用したものです。

GSE 10-21 (A1未満)

A1に満たない学習者は、英語の音韻が第一言語の音韻と異なることの気付き、英語の音声記号の関係についての気付き、英語のアルファベットと活字体の慣例（大文字小文字、基本の句読法等）や簡単な単語のつづりについての気付きが発達途中の段階です。

これらの学習者には、簡略化されたインプット、ゆっくりした速度でのはっきりとした発話、繰り返し、意味の助けとなるもの（写真、物、ジェスチャー、翻訳等）といった形での広範なサポートが必要です。

このレベルの学習者は、次のことができます。

- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、今すぐ必要な物事、個人についての基本的な情報、あるいは個人に関する身近な関心事に関する、非常に短く簡単な発話を理解できる。
- 基礎的な範囲の覚えた単語や短いフレーズだけでなくジェスチャーや動作を用いて、意思疎通を図ることができる。
- 社会の基礎的な定型句（挨拶、感謝、謝罪等）を用いることができる。
- なじみのある単語や短いフレーズを書き写せる。

GSE 22-29 (A1)

グローバル・スケール・オブ・イングリッシュの22-29は、CEFRのA1レベルと同等です。この段階では、学習者は憶えた単語に頼るのではなく、基礎的な言葉を自力で作り出し始めます。個人についての詳細な情報、日常の習慣的な状況、非常になじみのあるトピック（学校の科目に関するトピックを含む）に関する、主に具体的な単語、簡単なフレーズ、機能的な言葉の基礎的なレパートリーを持っています。基礎的な英語の使い手であるこれらの学習者は、簡略化されたインプット、ゆっくりした速度でのはっきりとした発話、しっかりとしたサポート（視覚的な助け、手がかり、誘因、書かれた手本等）に依存します。

このレベルの学習者は、次のことができます。

- 個人情報や非常になじみのあるトピックに関する、基礎的な範囲の単語、簡単なフレーズ、日常の標準的な表現を理解して用いることができる。
- 他人による一時的中断や繰り返しがあれば、ゆっくりした速度でのはっきりとした発話についていける。
- 日常の習慣的な簡単なやりとりの中で、ゆっくりした速度ではっきりと直接語られれば、言われたことをほとんど理解できる。
- 簡単な句、基本文型、基礎的な定型表現を用いて、意思疎通を図ることができる。
- 単語や短い文をいくつか用いて、なじみのあるトピックについての簡単な質問に答えることができる。
- 相手がゆっくりとした速度で話し、必要に応じて繰り返しやパラフレーズを行い、自分が言いたいことを述べる手助けをしてくれれば、簡単なやり方で人と交流できる。
- なじみのあるトピックについて、フレーズや、簡単な独立したセンテンス、非常に短い簡単なテキストを書ける。

GSE 30-35 (A2)

グローバル・スケール・オブ・イングリッシュの30-35は、CEFRのA2レベルと同等です。基礎的な英語の使い手であるこれらの学習者は、英語についての知識と理解を広めながら、まだ、簡略化された言葉によるインプットや、しっかりとしたサポートを必要とします。理解や意味のある交流を可能にするためには、引き続き、速度やはっきりとした発話という観点で会話を修飾する相手に大部分依存しますが、コントロールや自信を高めていることが見てとれます。

このレベルの学習者は、次のことができます。

- 個人的に関心のある分野、なじみのあるトピック、他の科目に関連するトピックに関して見聞きした、さまざまな簡単なフレーズや表現を理解して用いることができる。
- ゆっくりした速度ではっきりと話される短い簡単な社会的やりとりについていける。
- 日常的な状況に関する限定的な情報を伝達できる。
- 簡単なやり方で、日常生活や日常の活動について、質問したり、質問に答えたりできる。
- 簡単な用語で、人、場所、持ち物について記述できる。
- なじみのあるトピックについて、非常に簡単な段落としての長さのある、つながりのある文章を作ることができる（最大50ワード）。

GSE 36-42 (A2+)

グローバル・スケール・オブ・イングリッシュの36-42は、CEFRのA2レベルでも高いほうのレベル、つまりA2+と同等です。A2+レベルの学習者は、もうすぐ「自主性のある」英語の使い手として分類されるところまできています。意思疎通を可能にする上で、会話の相手による言葉の修飾への依存性が低くなりつつあります。A2+レベルを見分ける要素は、簡単かつ予測可能な日常の社会的なやりとりに、より積極的に参加する能力（まだ多少の手助けは必要であるにせよ）と、長めの一人語りを持続する能力です。なじみのあるトピックについて、簡単な用語で、限られた範囲の文法構造と文型を用いて、手助けをあまり必要とせずに自分の考えを伝え、情報交換し考えを述べることができます。

このレベルの学習者は、次のことができます。

- 環境的な側面、過去の活動や経験、一般的なトピックに関する簡単な言葉を理解して用いることができる。
- 相手が繰り返しや言い換えをすれば、なじみのある事柄について、ゆっくりとした速度ではっきりと話された標準的なスピーチを理解できる。
- 予測可能な日常的な状況において、簡単かつ限定的な対面での会話を開始し、持続し、終了できる。
- 必要に応じて相手が手助けすれば、なじみのあるトピックについて簡単な用語で情報交換し考えを述べるができる。
- 簡単に構成がはっきりとした段落や、複数の段落にわたる短い簡単なテキストを書ける。

GSE 43-50 (B1)

グローバル・スケール・オブ・イングリッシュの43-50は、CEFRのB1レベルと同等です。この段階の学習者は自主性が増しつづけます。このレベルの重要な特徴として、多様な背景において交流を持続し、必要なことを伝達できる能力があり、予測しにくい状況にも対処できます。長めの、より複雑な文章を作ることができ、語彙の増加に伴い、会話を編成するための文法的な手段や語彙的な手段を発達させつづけます。

このレベルの学習者は、次のことができます。

- 学校や余暇などで定期的に発生するなじみのある事柄についての、はっきりと話された標準的なスピーチの要点を理解できる。
- 準備なしの会話に入り、なじみのあるトピックについて個人的な意見を述べ、予測可能な日常的な状況において交流を図れる。
- 経験、出来事、夢、希望、抱負について多少詳しく述べ、発言、意見、計画について理由と説明を簡単に述べるだけで済むだけの多様な言葉を習得している。
- 母語話者にとって自然な慣用表現が使用されなければ、日常会話の多くについていける。
- 準備されたトピックについて話し、限られた質問に対処できる。
- なじみのあるトピックあるいは個人的な興味のある多様なトピックについて、基礎的な構造のつながりのある文章を作ることができる。

GSE 51-58 (B1+)

グローバル・スケール・オブ・イングリッシュの51-58は、CEFRのB1レベルでも高いほうのレベル、つまりB1+と同等です。B1+レベルを見分ける要素は、学習者がより幅広い、より豊富な情報を論じることができることです。これは、多様な構造と語彙を発達させつづき、これによって自分を表現できるからです。

このレベルの学習者は、次のことができます。

- なじみのあるトピックについて、多くのテレビ番組の大部分を理解できる。
- 短い物語、記事、トーク、議論について自分の意見を要約して言うことができ、詳細についてさらに質問に答えることができる。
- 日常的な事柄と非日常的な事柄について情報交換できる。
- なじみのあるトピックについて、基礎的な構造の短い簡単なエッセイを書ける。

GSE Learning Objectives

Listening

GSE 10-21/Below A1: Listening

-
- 10 アルファベットの文字を名前で理解できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、なじみのある日常の名詞や形容詞（色、数字、教室にある物等）をいくつか認識できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話された短いフレーズや文章で、10までの数字を認識できる。(P)
- 簡単な評価の求めにジェスチャー（親指を上げるしぐさ等）に対応できる。(P)
- アルファベットの文字を音で識別できる。(P)
-
- 12 簡単な評価（はい／いいえ、良い／悪い、等）を理解できる。(P)
-
- 13 絵やジェスチャーがあれば、授業での短く基礎的な指示についていける。(P)
- ジェスチャーがあれば、出会いや別れの挨拶の基礎的な表現を理解できる。(P)
-
- 15 基礎的な動作語（手をたたく=clap、音を立てて足を踏む=stamp、飛び跳ねる=jump、歩く=walk、等）を理解できる(P)
-
- 16 絵やジェスチャーがあり、ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、なじみのあるトピックについての孤立単語を認識できる。(P)
- ジェスチャーがあれば、日常的な状況に関する簡単な禁止の指示（「走ってはいけません」等）を理解できる。(P)
-
- 17 授業での活動の始まりと終わりの示唆に使用される、なじみのある表現を識別できる。(P)
-
- 18 ゲームの一部として、音声による簡単な指示を理解できる。(P)
- 短く簡単な歌やチャンツの、なじみのある単語やフレーズを識別できる。(P)
- 1時間単位で表された時刻を理解できる。(P)
-
- 19 人が自己紹介をしているときに、主要な情報を理解できる（名前、年齢、出身地等）。(P)
- 絵やジェスチャーがあれば、ゆっくりした速度ではっきりと話された短いフレーズや文章で、なじみのある単語を識別できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、短く基礎的な描写（色、大きさ等）から、身近な場や絵の中にある日常的な物事／人物／動物を特定できる。(P)
-
- 21 ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、身近な場や絵の中にある物について基礎的な情報（色、大きさ等）を尋ねる、簡単な質問を理解できる。(P)
- 家族の呼称や描写に関する簡単な語句を理解できる。(P)
-

GSE 22-29/A1: Listening

-
- 22 身近な場や絵の中にどんなものがあるかを尋ねる、基礎的な質問を理解できる（「これは何ですか？」等）。(P)
-
- 23 5分以下の単位で表された時刻を理解できる。(P)
- 先生の簡単な意見を理解できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、基礎的な個人情報に関する短く簡単な質問を理解できる。(P)
- 15分単位で表された時刻を理解できる。(P)
-
- 24 絵やジェスチャーがあり、ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、物や人が置かれている場所に関する基礎的な説明を理解できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと読み上げられれば、短い絵本の中の、なじみのある単語や基礎的なフレーズを識別できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、天気に関する基礎的なフレーズを理解できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、(物、人、動物等の) 短く基礎的な描写の中で、なじみのある鍵となる単語やフレーズを識別できる。(P)
-
- 25 30分単位で表現されるならば、一日の時間帯を理解できる。(P)
- 絵やジェスチャーがあり、ゆっくりした速度ではっきりと語られれば、短く簡単な物語の要点をつかめる。(P)
- 絵があり、ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、なじみのあるトピックについての単語や簡単なフレーズを認識できる。(P)
-
- 26 人の服装の呼称や描写に関する簡単な語句を理解できる。(P)
- 絵やジェスチャーがあり、ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、人の肉親に関する基礎的な情報を理解できる。(P)
- 短く簡単な電話での対話であれば、発信者の名前と電話番号を特定できる。(P)
- 絵やジェスチャーがあり、ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、短く簡単な対話の中で、曜日と日にちを特定できる。(P)
-
- 27 身体的な特徴や服装についての短く簡単な描写から、身近な場や絵の中にいる人を特定できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、短く簡単な対話の中で、人や場所の名前を特定できる。(P)
-
- 28 ジェスチャーや繰り返しがあれば、短くなじみのある昔話についていける。(P)
-

GSE 30–35/A2: Listening

- 30 どこにいて何をしているのかを説明する短く簡単な描写から、身近な場や絵の中にいる人を特定できる。(P)
- 絵があり、ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、家やアパートに関する基礎的な情報（部屋、家具等）を理解できる。(P)
- 文字で書かれた説明を与えられれば、よく見るタイプのアニメについていける。(P)
- 31 ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、短く簡単な物語や対話の中で、好き嫌いについての基礎的な表現を理解できる。(P)
- 絵があり、ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、人の日常の習慣に関する短く簡単な対話の中で、主要な情報を理解できる。(P)
- 絵があり、ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、よく目にする職業に関する基礎的な情報を理解できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、（店内等での）何かの値段に関する短く簡単な対話から、何かの費用がいくらかを特定できる。(P)
- 限定する節を含んだ簡単な指示を理解できる（誕生日が3月なら、ここに立って、等）。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話され、文字で書かれた誘因に導かれれば、短く簡単な対話の中で、基礎的な個人情報を理解できる。(P)
- 32 なじみのある日常的な状況に関する短く簡単な対話の内容を特定できる。(P)
- 33 ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、出来事に関する短い告知の中で、重要な情報（曜日、日にち、場所等）を特定できる。(P)
- 絵があり、ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、人の趣味や興味に関する短く簡単な対話の中で、主要な情報を理解できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、なじみのあるトピックについての簡単なフレーズを識別できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、なじみのある日常のトピックについての短く簡単な対話や物語の中で、事実に関する基礎的な情報を特定できる。(P)
- 34 繰り返しや言い換えがあれば、短く簡単な対話の中で、具体的な情報を特定できる。(P)
- 絵があり、ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、短い天気予報の要点をつかめる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと、地図を用いながら話されれば、目的地に徒歩で行くための簡単な道案内を理解できる。(P)
- 35 短い記述において、誘因や質問を参考にしながら、価格、時間、日にちなどの重要な情報を特定できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、なじみのある活動に関する短く簡単な対話の中で、主要な情報を理解できる。(P)
- 日常会話が行われている背景を特定できる。(P)
- 質問で導かれれば、物や動物や建物の簡単な記述の中で、高さ、重さ、長さ等に関連する数字を特定できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、2つの場所の簡単な比較を理解できる。(P)

GSE 36–42/A2(+): Listening

- 36 ゆっくりした速度ではっきりと語られれば、短い物語や語りにおいて、出来事の流れについていける。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、何かの準備を行っている話し手の短く簡単な対話の中で、具体的な情報を特定できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、短く簡単な対話の中で、人の性格に関する具体的な情報を特定できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと語られれば、なじみのあるトピックについての短い話の要点を特定できる。(P)
- 話し手がゆっくりした速度ではっきりと話すなら、くだけた会話の中で、好みを理解できる。(P)

- 37 話し手がゆっくりした速度ではっきりと話すなら、なじみのある日常のトピックに関するくだけた会話の中で、具体的な詳細をほとんど理解できる。(P)
- 地図を使って語られる、公共交通機関を利用して目的地に着くための簡単な道案内を理解できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、短い非公式な議論の中で、賛否の基礎的な表現を識別できる。(P)
- 38 ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、なじみのあるトピックについての事実に関する話の中で、重要な詳細(名前、番号等)を特定できる。(P)
- 話し手がゆっくりした速度ではっきりと話すなら、くだけた会話の中で、人の好みについて理解できる。(P)
- 日常的な状況に関する、録音された短く簡単な留守電のメッセージを聞いて、重要な情報を特定できる(映画館で何をやっているか等)。(P)
- 39 ゆっくりした速度ではっきりと話され、始まりのフレーズがあらかじめ与えられていれば、過去の出来事についての短く簡単な対話や物語の中で、事実に関する情報を抜き出せる。(P)
- 一般的な症状や病気に関する、限られた範囲の基礎的な言葉を理解できる。(P)
- つなぎ語／フレーズによってはっきりと導入されれば、なじみのあるトピックについての短い話の中で、話し手の要点の裏付けとなる簡単な具体例を識別できる。(P)
- 41 はっきりと話された標準的なスピーチでなら、個人的な興味のあるトピックに関する実際に生活の中で使われている録音素材を聞いて、要点をつかめる。(P)
- 42 過去に起こった物事に関する簡単な会話を理解できる。(P)
- 質問や始まりのフレーズがあらかじめ与えられていれば、なじみのある日常のトピックに関する長いダイアログの中で、ある程度の詳細を理解できる。(P)
- ゆっくりした速度ではっきりと話されれば、過去の有名人に関する短く簡単な話の中で、基礎的な伝記的情報を特定できる。(P)

GSE 43-50/B1: Listening

- 43 絵があり、はっきりと話された標準的なスピーチであれば、個人的な興味のあるトピックに関する実際に生活の中で使われている録音素材の要点をつかめる。(P)
- 複雑でない話の中のユーモアを理解できる。(P)
- なじみのあるトピックについての短くくだけたインタビューの要点を理解できる。(P)
- スポーツイベントに関する短い論評において、重要な情報を特定できる。(P)
- 44 なじみのあるトピックについての簡単な話の中で、類似した考えを列挙するときの一般的なつなぎ語／フレーズ (firstly, also等) の用法を認識できる。(P)
- 短く簡単な語りの中で、出来事の流れの示唆となっている、さまざまな一般的なつなぎ語／フレーズを識別できる。(P)
- 45 繰り返しや言い換えがあれば、なじみのある具体的なコンテキストの中の、未知語の意味を推論できる。(P)
- 46 なじみのある日常のトピックに関する長さのあるダイアログの中で、ある程度の詳細を理解できる。(P)
- 48 話し手がはっきりとした標準的な言葉で話すなら、人々の生活に関する録画インタビューを聞いて、重要な情報を特定できる。(P)
- 49 なじみのあるトピックについての、短くはっきりと話された、事実に関する話やプレゼンテーションを聞いて、要点を特定できる。(P)
- 50 なじみのあるトピックについての簡単な物語文や会話の中で、書き出しのフレーズなどがあらかじめ与えられていれば、話し手が主題に戻るときの一般的なつなぎ語／フレーズ (anyway, anyhow等) の用法を認識できる。(P)
- 技術的ではない、さまざまなトピックに関する長さのあるダイアログの中で、ある程度の詳細を理解できる。(P)

GSE 51-58/B1+:Listening

- 51 はっきりと話された標準的なスピーチなら、個人的な興味のあるトピックに関する実際に生活の中で使われている録音素材を聞いて、重要な情報を理解できる。(P)
- 52 はっきりと話された標準的なスピーチなら、長さのある情報提供型の一人での語りを聞いて、重要な詳細情報を抜き出せる。(P)
- 53 話し手がはっきりとした標準的な言葉で話すなら、長さのある非公式な議論において、賛否を表す語句を識別できる。(P)
- 録画された広告の目的を特定できる。(P)
- はっきりと話された標準的なスピーチなら、一般的に興味のあるトピックについての事実に関する長い話の要点を理解できる。(P)
- 54 一般的なつなぎ語によって示唆されれば、なじみのあるトピックについての長さのある情報提供型で、要点とそれを裏付ける例との関係を識別できる。(P)
- はっきりと話される標準的なスピーチなら、なじみのあるトピックについての長さのある会話の詳細を理解できる。(P)
- 55 話し手がはっきりとした標準的な言葉で話すなら、個人的な興味のある事柄についての長さのあるくだけた会話において、はっきりと述べられた意見を特定できる。(P)
- 構成がはっきりとした明快な話の中や、なじみのあるトピックについての議論の中で、詳細情報が主題とどのように関わっているかを識別できる。(P)
- 56 はっきりと話された標準的なスピーチでなら、一般的なトピックに関する、長さのある情報提供型の話の中で、要点と副次的な要点とを区別できる。(P)
- はっきりと話された標準的なスピーチでなら、人々の生活や経験についての、長さのある話やインタビューの詳細を理解できる。(P)



Reading

GSE 10-21/Below A1: Reading

- 10 アルファベットの大文字と小文字を識別できる。(P)
質問にはクエスチョンマークを付けるという用法を認識できる。(P)
- 12 単語で書かれた10までの数字を読むことができる。(P)
- 13 短いテキストに単語で書かれた10までの数字を識別できる。(P)
- 15 第一言語の単語と類似した単語（カタカナ語など）を認識できる。(P)
- 17 人を紹介する基礎的な文を理解できる（名前、年齢等）。(P)
日常のさまざまな基礎的な名詞や形容詞（色、数字、教室にある物等）を認識できる。(P)
- 18 単語で書かれた50までの数字を認識できる。(P)
- 21 基礎的な動作語（手をたたく=clap、音を立てて足を踏む=stamp、飛び跳ねる=jump、歩く=walk、等）を認識できる(P)

GSE 22-29/A1: Reading

- 22 単語で書かれた20までの序数を識別できる。(P)
- 23 絵があれば、なじみのある場所に関する短く簡単な記述を理解できる。(P)
短く簡単なテキストにおいて、なじみのある単語を特定できる。(P)
単語で書かれた100までの数字を識別できる。(P)
授業での活動に用いられる、文字で書かれた基礎的な指示（Read and Match=文を読んでマッチする絵を探す、等）を理解できる。(P)
- 24 絵があれば、なじみのある日常のアイテムを挙げた基礎的な文を理解できる。(P)
短く簡単なテキストにおいて、基礎的なフレーズを理解できる。(P)
短く簡単なテキストにおいて、大文字を探すことで、固有名詞（人名、地名、国名等）を見つけることができる。(P)
短く簡単な漫画の中で、重要な言葉や基礎的なフレーズを識別できる。(P)
- 25 否定的発言と肯定的発言を区別できる。(P)
- 26 絵があれば、人の身体的な特徴（目／髪の色、身長等）を説明した基礎的な文を理解できる。(P)
絵があれば、持ち物についての基礎的な文を理解できる。(P)
読むのと聞くのを同時に行う方法なら、短い絵本の中の簡単な対話についていける。(P)
- 27 授業の時間割りを示す簡単な日課表の情報を理解できる。(P)
絵があれば、なじみのある日常のアイテム（色、大きさ等）を説明した基礎的な文を理解できる。(P)
- 28 絵があれば、何かをするときの基礎的な説明書を理解できる（マスク、掛け時計等）。(P)
- 29 単語で書かれた50までの序数を識別できる。(P)

GSE 30-35/A2: Reading

- 30 絵があれば、なじみのある日常のトピックに関する短く簡単なダイアログの中の、いくつかの詳細を理解できる。(P)
絵があれば、家やアパートについての短く簡単な描写（部屋、家具等）を理解できる。(P)
身体的な特徴や服装についての短く簡単な描写から、身近な場や絵の中にいる人を特定できる。(P)

- 31 絵があれば、人の典型的な一日についての短く簡単な記述を理解できる。(P)
 同じ部位を意味する単語と単語（「head」と「hat」等）を理解して結び付けることができる。(P)
 絵があれば、簡単なボードゲームの遊び方についての基礎的な説明に従うことができる。(P)
- 32 絵があれば、はがきを読んで休日に関するいくつかの簡単な詳細を理解できる。(P)
 図面に載っている主要な建物や、地図に載っている重要な地物を特定できる。(P)
 文脈があれば、日常的に公共の場で見られる標識板や警告板（規則、道順等）を理解できる。(P)
 単語の音節の数を特定できる。(P)
 なじみのあるキーワードが使われている、短く簡単な漫画を読み、出来事の流れていける。(P)
- 33 見出しやイラストの、事実に関する短く簡単なテキストにおいて、重要な情報を特定できる。(P)
 質問やフレーズがあらかじめ与えられていれば、簡単な絵本の全体的なテーマを特定できる。(P)
 地図に載っている建物や簡単な地物を見つけるために必要となる要素を理解できる。(P)
 絵があれば、なじみのあるトピックについての短く簡単なテキストにおいて要点をつかめる。(P)
- 34 身近な事柄についての情報を伝える、家族や友人からの短く簡単なメモを理解できる。(P)
 日常生活に関する簡単な情報提供型のテキスト（ポスター、チラシ等）から、特定の情報（事実、数字等）を抜き出せる。(P)
 質問で導かれれば、日常的な状況に関する短く簡単な対話の要点を理解できる。(P)
 絵があり、簡単な語句で表されれば、安全の手引きが理解できる。(P)
- 35 基礎的な対話や簡単な語りで書かれた簡単な物語についていける。(P)

GSE 36–42/A2(+): Reading

- 36 コンピューターゲームでの指示やフィードバックを理解できる。(P)
 簡略化された物語の主要なテーマを理解できる。(P)
 課題を行うための、簡単な書面の指示に従うことができる。(P)
- 37 短く簡単な個人的なテキスト（日記、電子メール等）において、好みや嗜好を理解できる。(P)
 絵があれば、短く簡単な物語の中で、なじみのない単語の意味を推測できる。(P)
 なじみのあるトピックについての基礎的な図表の中で、主要な情報を理解できる。(P)
 絵や質問があれば、なじみのある同じトピックについての2つの短く簡単なテキスト間で、事実の基礎的な類似性や違いを特定できる。(P)
 短く簡単なテキストにおいて、なじみのあるトピックについての具体的な情報を特定できる。(P)
- 38 絵があれば、なじみのない単語がいくつか含まれている短い動物図鑑（ファクトファイル）の簡単な詳細を理解できる。(P)
 絵があれば、簡単なレシピを理解できる。(P)
 行動と理由もしくは説明との関係を示すときに「because」を使う用法を認識できる。(P)
 なじみのあるトピックについての短く簡単な話の主旨を理解できる。(P)
 描写的な文章や話において、なじみのないコンテキストの中からのなじみのある単語を識別できる。(P)

- 39 質問やフレーズがあらかじめ与えられていれば、タイトルや絵などから短く簡単なテキストの内容を予想できる。(P)
- なじみのあるトピックについての短いテキストにおいて、特定の情報を抜き出すことができる。(P)
- イラスト入りの簡単なリーフレットの中で、若者の典型的な余暇の過ごし方について、具体的な情報を探せる。(P)
- 電子メールや、ショートメッセージ、ソーシャルメディア投稿における学校関連の短いメッセージを理解できる。(P)
- 意見と理由の関係を示すときに「because」を使うという用法を認識できる。(P)
- なじみのあるトピックについての描写的な簡単な文章の中で、要点を理解できる。(P)
- 40 質問やフレーズがあらかじめ与えられていれば、なじみのある商品の広告から、重要な情報を抜き出すことができる。(P)
- 地図があれば、街の重要な場所について説明している短く簡単なテキストを理解できる。(P)
- 41 (日記、話等において) 出来事の発生順を理解できる。(P)
- 事実に関する短い教科書の要点をつかめる。(P)
- フレーズや質問があらかじめ与えられていれば、なじみのあるテーマについての簡単なテキストにおいて、パラグラフの主要なトピックを特定できる。(P)
- 簡単な語句で表現された、なじみのあるトピックに関する基礎的な意見を理解できる。(P)
- 42 学校の科目に関するなじみのないテキストにおいて、重要な語彙や表現を特定できる。(P)
- 質問で導かれれば、類似した2つのテキストの違いを特定できる。(P)
- 一般的なつなぎ語やフレーズを識別することで、簡単な物語文において出来事の流れについていける。(P)
- 短く簡単な物語文において見解を特定できる。(P)

GSE 43-50/B1: Reading

- 43 主要な情報が番号と名称の形式で示されているニュース記事の要点をつかめる。(P)
- 質問で導かれれば、なじみのあるトピックについての簡単に構成がはっきりとしたパラグラフ群において、論点を裏付けている詳細を特定できる。(P)
- 一般的なつなぎ語を識別することで、短いフレーズ間のつながりを特定できる。(P)
- 質問や書き出しのフレーズがあらかじめ与えられていれば、物語の中の未知語(2~3個)の意味を文脈から推測できる。(P)
- 索引を使用してテキストの中の重要な情報を見つけることができる。(P)
- 44 絵があれば、なじみのある簡単な語句で書かれた長さのある物語やテキストについていける。(P)
- 課題をやり遂げるための詳細な指示に従うことができる。(P)
- 45 フローチャートや略図があれば、簡単なプロセスにおける描写において(紙すき等)、主要な情報を理解できる。(P)
- 質問やフレーズがあらかじめ与えられていれば、なじみのあるトピックについての簡単に構成がはっきりとしたパラグラフ群において、トピックセンテンスを特定できる。(P)
- 簡単なひとつながりのテキストに付加的な情報を取り入れるための、さまざまな基礎的なつなぎ語/フレーズの用法を認識できる(also, as well as, too等)。(P)
- なじみのあるトピックについての事実的なテキストの情報に関して、簡単な結論を引き出すことができる。(P)
- 46 簡単な情報提供型のテキストにおいて、(棒グラフ、時系列図、等の)基礎的な図表のラベルに書かれている情報を推論できる。(P)
- 47 特定の情報を探すために同じトピックについて書かれた短く簡単な複数のテキストに素早く目を通すことができる。(P)

-
- 48 質問で導かれれば、新聞の見出しから情報を抜き出すことができる。(P)
-
- 49 簡単なテキストにおいて事実と意見を区別できる。(P)
-
- 簡単なひとつながりのテキストにおいて、着想間の因果関係を認識できる。(P)
-
- 50 百科事典の短い項目の要点をつかめる。(P)
-

GSE 51-58/B1(+): Reading

- 51 なじみのあるトピックについての長い構成がはっきりとした文章の中で、各パラグラフの主題を特定できる。(P)
-
- なじみのあるトピックについての複雑でないテキストであれば、筆者の全体的な目的を特定できる。(P)
-
- 52 なじみのあるトピックについての複雑でない構成がはっきりとした雑誌記事の中で、主題を特定できる。(P)
-
- 複雑でない物語文の中で、登場人物の動機と感情について簡単な推論ができる。(P)
-
- チャートやグラフや図表に示された情報を含むテキストの中で、情報を結びつけることができる。(P)
-
- ソーシャルメディアのウェブサイト上で、メッセージの流れについていける。(P)
-
- 53 質問で導かれれば、物語の中のさまざまな見解を比較できる。(P)
-
- 質問やフレーズがあらかじめ与えられていれば、簡単な物語や、物事の描写をしている文章の中で、述べられていない情報を推論できる。(P)
-
- 54 基礎的な正式の手紙において、適切な使用域の主な特徴を特定できる。(P)
-
- 簡単な手紙において、やや正式な形式とくだけた形式とを区別できる。(P)
-
- 55 構成がはっきりとした複雑でない長いテキストに目を通して、大体の文脈をつかむことができる。(P)
-
- (夏休みの宿題等で) 特定のトピックについてインターネット上で適したテキストを見つけ、最も重要な情報を抜き出すことができる。(P)
-
- 56 長さのある情報提供型のテキストにおいて、テキスト構成上の特徴（見出しやキャプションなど）を用いて特定の情報を探せる。(P)
-
- 57 なじみのあるトピックについての長いテキストの中で、筆者の見解を裏付けている証拠を特定できる。(P)
-
- 同じテーマについての短い複数の情報提供型テキストにざっと目を通して、関連する情報を探せる。(P)
-

GSE 59-66/B2: Reading

- 60 なじみのあるトピックに関する見解を比較・対照している複数のテキストから証拠を特定できる。(P)
-
- 65 思想、感情、着想を表現している長いテキストにおいて、筆者の姿勢や意見を特定できる。(P)
-

Speaking

GSE 10–21/Below A1: Speaking

- 10 5までの数字を使える。(P)
 出会いや別れの挨拶の基礎的なくだけた表現を使える(「hello」、「hi」、「bye」等)。(P)
 日常的な物事をいくつか挙げることができる。(P)
 基礎的な定型表現を用いて、礼儀正しく挨拶できる(「Good morning」、「Good evening」等)。(P)
 アルファベットの文字を言える。(P)
- 11 基礎的なフレーズを用いて自己紹介ができる(「My name's ...」等)。(P)
- 12 基礎的なフレーズを用いて人に名前を尋ねることができる。(P)
 基礎的なフレーズを用いて自身の年齢を言える。(P)
- 13 基礎的なフレーズを用いて、自身の国籍を言える。(P)
- 14 基礎的なフレーズを用いて人の調子・近況を尋ねることができる。(P)
- 15 基礎的なフレーズを用いて、今日が何曜日かを言える。(P)
 自己紹介をするための鍵となる情報(名前、年齢、出身地等)を伝えることができる。(P)
- 16 短く簡単な韻やチャンツを暗唱できる。(P)
 基礎的なフレーズを用いて、自身がどの国の出身かを言える。(P)
 時刻を1時間単位で説明できる。(P)
- 18 20までの数字を使える。(P)
- 19 基礎的な個人情報に関する短く簡単な質問に、簡単な語・フレーズを使って答えることができる。(P)
 礼儀を示すための基礎的な単語やフレーズをいくつか使える(「please」、「thank you」等)。(P)
 質問や始まりのフレーズなどがあらかじめ与えられていれば、身近な場や絵の中にある日常的な物事を挙げることができる。(P)
- 20 20までの序数を使える。(P)
 なじみのある一語文を音読できる。(P)
 面識のない大人と話すときに、礼儀を表す正式な肩書(「Mr」、「Mrs」等)を使える。(P)
- 21 基礎的な動作に関する言葉(手をたたく=clap、音を立てて足を踏む=stamp、飛び跳ねる=jump、歩く=walk、等)を使える。(P)
 50までの数字を使える。(P)
 基礎的なフレーズを用いて、物の色について尋ねることができる。(P)

GSE 22–29/A1: Speaking

- 22 そらで基礎的な曲が歌える。(P)
 限られた範囲の一般的な形容詞(「happy」、「cold」等)を用いて、自身が思っていることを言える。(P)
 定型表現や韻を用いた基礎的な遊びに参加できる。(P)
 物に関する簡単な質問に答えることができる(色、サイズ等)。(P)
 5分以下の単位で表された時刻を説明できる。(P)

-
- 23 人に時間を尋ねることができる。(P)
自身の誕生日を言える(月日)。(P)
定型表現を用いながら、人の注意を引くことができる。(P)
-
- 24 基礎的なフレーズを用いて、人や物の位置についての簡単な質問に答えることができる。(P)
基礎的なフレーズを用いて、単語のつづりを尋ねることができる。(P)
15分単位で表された時刻を説明できる。(P)
-
- 25 標準的な慣例に従って電話番号を言うことができる。(P)
基礎的なやり方(色、サイズ等)で、物を描写できる。(P)
定型表現を用いながら、差し迫った危険について簡単な警告を発することができる。(P)
-
- 26 日にちを尋ねることができる。(P)
基礎的なフレーズを用いて、家族や友人についての簡単な質問に答えることができる。(P)
簡単な語句を用いて、今すぐ必要な物を表現できる(「I want a drink」、「I need a pen」等)。(P)
絵やジェスチャーを用いて、基礎的なやり方で、物や人の配置を説明できる。(P)
-
- 27 簡単な早口言葉など、言葉遊びができる。(P)
50までの序数を使える。(P)
基礎的なフレーズを用いて、天気がどのようなものであるかを言える。(P)
基礎的なフレーズを用いて、物の場所を尋ねることができる。(P)
基礎的なだけでなく定型表現を用いながら、家族や友人への短い電話を開始・終了できる。(P)
50までの数字を使える。(P)
物に関する基礎的な質問をすることができる(色、サイズ等)。(P)
-
- 28 簡単に丁寧な言い回し表現を用いて、謝罪することができる。(P)
限られた範囲の定型表現を用いて、絵の中の人について簡単な結論を出す(「he's happy」等)ことができる。(P)
100までの数字を使える。(P)
何を手に入れたのかを聞き出すための基礎的な質問をすることができる。(P)
-
- 29 理解できないときに、簡単な定型表現を用いながら、繰り返しやはっきりとした説明を求めることができる。(P)
基礎的なやり方で、なじみのあるトピックに関連した好き嫌いを伝えることができる。(P)
なじみのある一般的な職種名を用いて、人の職種を言える。(P)
すぐに必要とする、個人的なニーズの基礎的な要求をいくつか伝えることができる(「Can I go to the toilet?」、「Can I have a pen, please?」等)。(P)
なじみのある短いフレーズを、理解しやすい発音で音読できる。(P)
基礎的なやり方で、物の場所を伝えることができる。(P)
物の所有者が誰かを言える。(P)
質問や始めのフレーズがあらかじめ与えられていれば、基礎的なやり方で、人の身体的な特徴を説明できる。(P)
質問や始めのフレーズがあらかじめ与えられていれば、基礎的なやり方で、自身の肉親について話せる。(P)
人に紹介されたときに、簡単な定型表現を用いながら、礼儀正しく対応できる。(P)
一緒に行ってほしい物事の依頼を、定型表現を用いながら伝えることができる(「Let's play」等)。(P)
-

GSE 30–35/A2: Speaking

-
- 30 絵や始めのフレーズが与えられていれば、基礎的な語句を用いて、日常的な活動ができるかどうか尋ねることができる。(P)
-
- 簡単な定型表現を用いて、基礎的な賛辞を述べる。(P)
-
- 一般的な日常活動に関して、何かを入手する、またはしてもらうという簡単な要求を行うことができる。(P)
-
- 簡単な語句を用いて人を紹介できる。(P)
-
- 絵やジェスチャーがあれば、話している目の前で人が何をしているかを描写できる。(P)
-
- 基礎的なくだけた定型表現をいくつか使用して、簡単な謝罪に返答することができる(「That's alright」、「No problem」等)。(P)
-
- 標準的な形式を用いて日付(月日)を言える。(P)
-
- 簡単な語句を用いて、ある場所から物が紛失していることを言える。(P)
-
- くだけた定型表現をいくつか用いて、簡単な要求に同意できる。(P)
-
- 簡単に自分や人の通学方法を言える。(P)
-
- 簡単に日常習慣について説明できる。(P)
-
- 31 簡単な語句を用いて、一般的で日常的な物について説明できる。(P)
-
- 基礎的な日常の活動に関連した、できることとできないことを表現できる。(P)
-
- 誰の所有物なのかを知るための基礎的な質問ができる。(P)
-
- 意味を知らない単語やフレーズがあるときに、別の言語やフレーズへの言い換えを依頼できる。(P)
-
- 32 短い物語について、好きなところ/嫌いなところを簡潔に言える。(P)
-
- 標準的な形式を用いて年度を言える(1996、2013等)。(P)
-
- 簡単な語句を用いて、家具や部屋について話せる。(P)
-
- 礼儀正しい適切な言葉を用いて、簡単な要求を拒否できる。(P)
-
- 33 簡単な定型表現を用いて、同意を表明できる。(P)
-
- 課題を完了させるよう、級友に簡単な指示を出せる。(P)
-
- 簡単な定型表現を用いて、驚きや動揺を表現できる。(P)
-
- 34 手本が与えられれば、「but」を用いてごく基礎的な対比を表現できる。(P)
-
- 簡単な語句を用いて、趣味や興味について話せる。(P)
-
- 手本が与えられれば、一般的な物や動物について、それぞれの基礎的な違いを説明できる。(色、大きさ、配置等)。(P)
-
- 簡単な語句を用いて、カフェやレストランで飲食物を注文できる。(P)
-
- 35 簡単な語句を用いて、街の中の場所の位置について尋ねることができる。(P)
-
- 会話時に起こっている活動について話せる。(P)
-
- 簡単な語句を用いて、徒歩または公共交通機関を利用して目的地への行き方を尋ねることができる。(P)
-
- 短く簡単な物語を、相手が理解できるように音読できる。(P)
-
- 手本が与えられれば、好みを説明する簡単な理由を述べる。(P)
-
- 簡単な定型表現を用いれば、基礎的な言い訳をすることができる。(P)
-
- 基礎的な定型表現を用いて、配慮を示すことができる。(P)
-

GSE 36–42/A2(+): Speaking

-
- 36 簡単な語句を用いて、国内の天候を説明できる。(P)
-
- 生活や経験について、人に簡単な質問をすることができる。(P)
-
- 言葉当て遊びで、答えを見つけるためのさまざまな質問をすることができる。(P)
-
- 37 自分や人が一般的な日常の活動をどの程度の頻度で行うか、基礎的な頻度を表す表現を用いて言える（「every Monday」、「twice a month」等）。(P)
-
- 簡単な語句を用いて、級友が情報を理解したかどうかを確認できる。(P)
-
- 手本が与えられれば、was/wereを用いて、人に以前の居住地を尋ねることができる。(P)
-
- 基礎的で非公式な語句を用いて、電話で名前を名乗り、目的の相手と話したいことを告げることができる。(P)
-
- 簡単なつなぎ語を用いて、個人の基礎的な経験について話せる。(P)
-
- 一般的な日常の活動をどの程度の頻度で行うか、人に尋ねることができる。(P)
-
- 基礎的な定型表現を用いて、意見の相違を示すことができる。(P)
-
- 地図を用いて簡単な道案内をすることができる。(P)
-
- 悪いことをしたときに、単純な言い訳を言うことができる（授業に遅刻した等）。(P)
-
- 38 簡単なやり方で、近い将来の計画について話せる。(P)
-
- フレーズなどがあらかじめ与えられていれば、短い対話劇やロールプレイを演じることができる。(P)
-
- 手本が与えられれば、一般的な形容詞を用いて、2人あるいは2つの物の、直接的な簡単な比較を行うことができる。(P)
-
- 基礎的な定型表現を用いて、一般的な日常の活動について提案をすることができる。(P)
-
- 手本が与えられれば、一般的な物と物の基礎的な類似点を説明できる。(P)
-
- 地図を見ながら、簡単な言葉を語句を用いて街中の一般的な店舗や公共施設の場所を伝えることができる。(P)
-
- 簡単な語句を用いて、イベント（コンサート、サッカーの試合、等）について基礎的な情報を尋ねることができる。(P)
-
- 39 簡単な語句を用いながら、なじみのある活動を示している2枚の絵の基本的な違いを描写できる。(P)
-
- 始めのフレーズなどがあらかじめ与えられていれば、基礎的なやり方で、人の個性を説明できる。(P)
-
- 40 地図を見ながら、徒歩または公共交通機関を利用した相手の目的地への簡単な道案内をすることができる。(P)
-
- 質問や誘因を参考にしながら、自分や人の以前の居住地を言える。(P)
-
- 礼儀正しい簡単な質問を用いて、徒歩または公共交通機関を利用して目的地への道を尋ねることができる。(P)
-
- 41 簡単な語句を用いて、過去の出来事や経験について話せる。(P)
-
- 級友に対して、交代で行うことを提案できる。(P)
-
- 簡単なつなぎ語を用いて、一般的な過去の活動について話せる。(P)
-
- 簡単な語句を用いて、なじみのあるトピックについて自身の意見を述べるることができる。(P)
-
- さまざまな定型表現を用いて、人に最近の出来事を尋ねることができる。(P)
-
- 42 基礎的な定型表現をいくつか用いて、何をするか提案をすることができる（「Let's」、「Why don't we ...?」等）。(P)
-
- 手本が与えられれば、将来に関して簡単な予測をすることができる。(P)
-
- 複雑でない物語や劇において、予想される次の展開を簡潔に言える。(P)
-
- 学校でのトピックについて発表した後、簡単な質問に答えることができる。(P)
-

GSE 43-50/B1: Speaking

- 43 定型表現を用いて、簡単なアドバイスをすることができる。(P)
さまざまな定型表現を用いて、絵の中の物の位置を説明できる（「in the foreground/background」（前景／背景の中）、「at the back」（～の後ろ）、等）。(P)
- 44 個人的な興味に関するトピックについて、事前に準備した短い簡単な話をするすることができる。(P)
手本が与えられれば、課題や活動の中で級友の成績について説明できる。(P)
人の特徴の類似点を、ある程度詳しく述べるすることができる。(P)
簡単な語句を用いて、なじみのあるゲームやスポーツの規則を説明できる。(P)
人の特徴の違いを、ある程度詳しく述べるすることができる。(P)
- 45 簡単な語句を用いて、冗談を言い直すことができる。(P)
質問や始めのフレーズが与えられていれば、面白い、もしくはわくわくする個人的な経験を簡潔に説明できる。(P)
- 46 正確な単語やフレーズがわからないときに、やさしい語句で言い換えることができる。(P)
手本が与えられれば、個人的な学習目標について述べるすることができる。(P)
質問で導かれれば、構成が整った議論において意見を言うことができる。(P)
- 47 手本が与えられれば、結末となり得る出来事や状況についてそれとなく言うことができる。(P)
興味をそそるような、簡単な描写的な語句を用いて、過去の出来事や経験について説明できる。(P)
授業で読んだ短い物語の登場人物を演じることができる。(P)
さまざまな定型表現を用いて、何をするか提案できる（「How about...?」等）。(P)
- 48 さまざまな定型表現を用いて、日常の事柄について、くだけたアドバイスを述べるすることができる。(P)
なじみのあるトピックについて、自分の意見の簡単な理由を述べるすることができる。(P)
- 49 さまざまな定型表現を用いて、議論で意見を述べるよう他人を促すことができる。(P)
最近行った事柄に関する質問に、ある程度詳しく答えることができる。(P)
- 50 さまざまな定型表現を用いて、一般的なトピックについて意見を述べるすることができる。(P)
簡単な語句を用いて、2つの文化の習慣の違いを説明できる。(P)

GSE 51-58/B1(+): Speaking

- 51 さまざまな定型表現を用いて、暫定的な意見の相違を礼儀正しく表現できる。(P)
さまざまな定型表現を用いて、暫定的な合意を礼儀正しく表現できる。(P)
個人情報や個人的に興味のある事柄について、ある程度詳しく話せる。(P)
- 53 準備期間があれば、一般的に興味を持たれるトピックについての議論に参加できる。(P)
- 54 長い物語の要点を、自身の言葉で言い換えることができる。(P)
(棒グラフ、時系列図、等の) 基礎的な図表の重要な情報を要約できる。(P)
- 56 ある行動方針の利点を、さまざまな定型表現を用いてある程度詳しく列挙できる。(P)
抱負や願望への理由を、ある程度詳しく述べるすることができる。(P)

GSE 59-66/B2: Speaking

- 59 2つの文化の習慣の違いを、ある程度詳しく述べるすることができる。(P)
- 60 さまざまな複雑なリンキングワードやフレーズを用いて、各種選択肢の長所・短所を比較できる。(P)

Writing

GSE 10-21/Below A1: Writing

- 10 大文字を正しく使用して自分の名前を書ける。(P)
 アルファベットの大文字を書ける。(P)
 アルファベットの小文字を書ける。(P)
 標準的な活字体で提示された短いなじみのある単語をいくつか書き写せる。(P)
- 13 標準的な活字体で提示されれば、なじみのある単語だけが含まれている短い文をいくつか書き写せる。(P)
- 16 一語文を書き写すことで、なじみのあるトピックに関する簡単な絵にラベルを付けることができる。(P)
- 19 ピリオドを用いて、文の終わりを示せる。(P)
- 20 なじみのある単語をいくつか書ける。(P)

GSE 22-29/A1: Writing

- 22 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、自分についての簡単な事実（名前、年齢等）を書ける。(P)
- 23 簡単な申込書に個人についての基礎的な情報を記入できる。(CA)
- 26 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、基礎的な個人情報や自己紹介の内容を含んだ基礎的な文をいくつか書ける。(P)
 短縮語を書くときにアポストロフィーを使える（「I'm」、「We're」等）(P)
- 27 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、肉親について書かれていることが伝わる基礎的な文章を書ける。(P)
 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、日常の物（教室にある物等）に関して基礎的な文章を書ける。(P)
- 28 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、日常のアイテム（色、大きさ等）を記述する基礎的な文章を書ける。(P)
 絵があれば、記憶した単語を用いて、特定の目的のリスト（買い物リスト、贈り物リスト等）を書ける。(P)
 手本があらかじめ与えられていれば、カード（バースデーカード等）に標準的な挨拶の言葉を書ける。(P)
 日常の習慣や活動について、基礎的な単文を書ける。(P)
- 29 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、「and」を用いて2つの簡単な文をつなぐことができる。(P)
 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、自分や人の持ち物（日常の物、ペット等）についての基礎的な文章を書ける。(P)

GSE 30-35/A2: Writing

- 30 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、なじみのあるトピック（食べ物等）の好き嫌いについて簡単な文を書ける。(P)
- 31 「and」を用いて単語群を1つの文章につなげることができる。(P)
 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、自分や人が身につけている物について簡単な文を書ける。(P)
- 32 自身の身体的な特徴（目／髪の色、身長等）について描写する簡単な文を書ける。(P)
 人の身体的な特徴（目／髪の色、身長等）について描写する簡単な文を書ける。(P)
 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、なじみのある物について簡単な文を書ける。(P)
 日常的な物事について簡単な文を書ける。(P)

- 33 ほかの人の好き嫌いについて簡単な文を書ける。(P)
- 34 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、「but」を用いて2つの簡単な文をつなぎ、基礎的な対比を表現できる。(P)
- 35 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、今すぐ必要な事柄に関して、家族や友達へのごく短い、簡単なメモを書ける。(P)
- 手本が与えられていれば、簡単な定型表現を用いて、絵の中の物の位置を説明できる（「in the front」（～の前）、「at the back」（～の後ろ）、等）。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、日常の活動についての短く基礎的な描写を書ける。(P)
- 疑問符の付けた、正しい構成の質問文を書ける。(P)
- 手本があれば、なじみのある個人的なトピック（家族、動物、持ち物等）について描写する短い文章を書ける(4～6文)。(P)

GSE 36-42/A2(+): Writing

- 36 手本が与えられていれば、簡単なテキスト（パーティへの招待等）を、重要な情報を含めて書ける。(P)
- 37 簡単でくだけた個人的なメッセージ（はがき、電子メール等）で、適切で標準的な挨拶と結びの言葉を使う。(P)
- なじみのあるトピックについて短く簡単に書かれたテキストから特定の情報を抜き出し、表や申込書に記入することができる。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、基礎的なつなぎ語を用いて、人の外見について短く簡単な描写を書ける。(P)
- 38 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、個人的な事柄についての短く簡単なテキストを書ける。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、人の習慣や癖について、いくつかの簡単な文を書ける。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、動物の簡単な事実に関する記述（生息地、能力、等）を書ける。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、ごく身近な情報を含む、短く簡単な個人的なメッセージを書ける。(P)
- 39 絵とキーワードがあれば、なじみのあるトピックについて、物事を描写する短く簡単な文章が書ける。(P)
- 40 手本があらかじめ与えられていれば、簡単な語句を用いながら、過去の活動について書ける。(P)
- なじみのあるトピックについての短く簡単なテキストを、つながりのある複数の文で書ける。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、なじみのあるトピックについての短く簡単に個人的な電子メール/手紙を書ける。(P)
- 良く知っている人に関する短い記述を書ける。(P)
- 人と人、場所と場所、あるいは物と物の簡単な比較を行える。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、「or」を用いて2つの簡単な文をつないで、二者択一の選択肢を示せる。(P)
- 41 適切な定型表現を用いて、短い物語を始め、締めくくることができる。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、基礎的なつなぎ語を用いて、なじみのある場所を描写する短く簡単な文章を書ける。(P)
- 質問や書き出しのフレーズがあらかじめ与えられていれば、行動の目的を記述できる。(P)

- 42 手本があらかじめ与えられていれば、簡単なひとつながりのテキストで、2人の類似点（特徴、個性、興味、等）を説明できる。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、簡単なひとつながりのテキストで、2つの物事（2つのスポーツ等）の類似点を説明できる。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、何かを使用する／行う（ゲーム等）ための短い説明書を書ける。(P)

GSE 43-50/B1: Writing

- 43 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、簡単なひとつながりのテキストで、2人の違い（特徴、個性、興味、等）を説明できる。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、限られた範囲のつなぎ語（「first」、「then」、「next」）を用いて、行動や出来事の流れを示唆できる。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、なじみのあるトピックについての、短く簡単に構成がはっきりとしたパラグラフを書ける。(P)
- 44 手本があらかじめ与えられていれば、会う段取りをつける簡単なテキストや電子メールを書ける。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、適切なレイアウトを用いて、イベントや活動についての情報（場所、時間、日にち、等）を伝える短く簡単なお知らせを書ける。(P)
- 45 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、基礎的なパラグラフ構造で短く簡単な著名人の伝記を書ける。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、個人的な学習目標を述べるができる。(P)
- 手本があらかじめ与えられれば、基礎的なつなぎ語／フレーズ（「also」、「as well as」、「too」等）を用いて、簡単なひとつながりのテキストに付加的な情報を取り入れることができる。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、イベントや商品の告知ポスターを作成できる。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、基礎的なつなぎ語／フレーズを用いて、住んでいる街中の一般的な店舗や公共施設についての情報を伝える、短く簡単に描写的な文章を書ける。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、適切な段落の区切りがある、簡単な手紙を書ける。(P)
- コンマを用いて文節を区切ることができる。(P)
- 46 簡単な語句を用いながら、ごく簡潔に、映画や書物の筋を説明できる。(P)
- 物の用途を説明できる（「it's a machine for...」等）。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、将来の計画について描写する短く簡単な個人的な電子メール／手紙を書ける。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、情報提供型のテキストにおいて、行動の理由を伝えることができる。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、個人の経験についての短く簡単な描写を、つながりのある複数の文章で書ける。(P)
- 手本が与えられれば、なじみのあるトピックについての意見を伝える、簡単に構成がはっきりとしたパラグラフを書ける。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、一般的なつなぎ語（「both」、「like」、「too」等）を用いて、2つの着想間の類似性を、簡単なひとつながりのテキストで示すことができる。(P)
- フィードバックに従って、短いテキストを書き直すことができる。(P)
- 47 手本があらかじめ与えられていれば、適切な小見出しを付けて住んでいる街／市について短く簡単な案内文を書ける。(P)
- 級友が解くための簡単な語句パズルを作成できる。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、つながりのある文章の中でスピーチマークを用いて直接話法であることを示せる。(P)

- 48 手本があらかじめ与えられていれば、謝罪の電子メール／手紙を書ける。(P)
- フィードバックに従って、人や場所の描写にさらなる詳細を書き加えることができる。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、なじみのある歴史上の出来事を簡潔な文章にすることができる。(P)
- 49 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、構成がはっきりとした基礎的なパラグラフの主題を裏付ける簡単な詳細を提示できる。(P)
- 書き出しのフレーズがあらかじめ与えられていれば、細かい部分を一部変更することで、なじみのある話の別のバージョンを作成できる。(P)
- 最近行った事柄についてある程度詳しく書ける。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、適切なパラグラフの区切りのある、自身の履歴について簡単な描写を書ける。(P)
- 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、適切なパラグラフの区切りのある簡単なテキストを書ける。(P)
- 50 書き出しのフレーズや手本があらかじめ与えられていれば、トピックセンテンスを用い、簡単に構成がはっきりとしたパラグラフの主題を提示できる。(P)
- なじみのあるトピックについての簡単に構成がはっきりとしたパラグラフを、適切な結びの一文で明確に締めくくることができる。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、目に見える経時的な変化（自然等）を説明できる。(P)

GSE 51-58/B1(+): Writing

- 51 手本があらかじめ与えられていれば、日常の事実に関する情報を尋ねる簡単な電子メール／手紙を書ける。(P)
- 52 具体例を出して、総論を説明することができる。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、構成が整った簡単なパラグラフで、述べられた意見を裏付ける事実や具体例を示せる。(P)
- フィードバックに従って、質問に対して書かれた答えを、さらに進展させることができる。(P)
- 53 さまざまな一般的なつなぎ語／フレーズ（「but」、「although」、「on the other hand」等）を用いて、簡単なひとつながりのテキストで2つの考えを比較できる。(P)
- 54 非公式なテキストにおいて、さまざまな意見を紹介しながらさまざまな一般的な定型表現を用いることができる。(P)
- 行動の流れを明確に示しながら、簡単な技術的プロセスの手順を説明できる。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、より正確な詳細情報を伝えるため、情報提供型のテキストに数値情報を組み込むことができる。(P)
- 興味をそそるように、物語文の中で対話を用いることができる。(P)
- 55 手本があらかじめ与えられていれば、説得力のある短いテキスト（チラシ等）を書ける。(P)
- 文化的なトピック（書籍、映画、コンサート等）に関する簡単な個人的な推薦文を書ける。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、苦情の電子メール／手紙を書ける。(P)
- 手本があらかじめ与えられていれば、適切なパラグラフの区切りがある、映画や書籍についての簡単な感想を書ける。(P)
- オンラインのテキストチャットを通じて、コンピュータゲームでのロールプレイについて協議できる。(P)
- 57 見解の理由あるいは見解に対抗する理由を述べる簡単な論拠を発展させることができる。(P)
- なじみのあるトピックについて、短く簡単な構成がはっきりとしたArgument Essay（事実に基づいて論証するエッセイ）を書ける。(P)
- 58 手本があらかじめ与えられていれば、仮説を展開できる。(P)

GSE 59–66/B2: Writing

- 59 手本があらかじめ与えられていれば、頭韻法などの文体の技法を用いて、文章により覚えやすい見出しや大見出しをつけることができる。(P)
- なじみのあるトピックについて、短く簡単な構成がはっきりとしたOpinion Essays (意見を記述するエッセイ) を書き、自身の意見を理由で裏付けることができる。(P)
- 60 さまざまな一般的なつなぎ語／フレーズを用いて、短く簡単な構成がはっきりとしたArgument Essay (事実に基づいて論証するエッセイ) に、対照的な考えを取り入れることができる。(P)
- 61 さまざまな一般的なつなぎ語／接続フレーズを用いて、短く簡単な構成がはっきりとしたArgument Essay (事実に基づいて論証するエッセイ) で、見解の理由あるいは見解に対抗する理由を列挙できる。(P)
- 実際の出来事または想像上の出来事に関する長い物語文で、さまざまな言葉遣いを用いて時系列を示せる。(P)
- 62 単純明快で構成がはっきりとした、典型的な問題に関する助言の電子メール／手紙を書き、自身の提案理由を示すことができる。(P)
- 63 なじみのある話を、別の形式(遊び等)に書き直すことができる。(P)



References

Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

North, B. (2000) *The Development of a Common Framework Scale of Language Proficiency*. New York: Peter Lang.

Vygotsky, L. (1978) *Mind in Society: the development of higher psychological processes*. Cambridge Mass: Harvard University Press.

Wood, D. J., Bruner, J. S., & Ross, G. (1976) 'The role of tutoring in problem solving'. *Journal of Child Psychiatry and Psychology*, 17(2), 89–10

Photography

Said Tayar Segundo: Cover, p.xx
Lu Yi: p15 Sue Barr: p.xx

パーソナライズされた学習

ピアソンでは、一般英語を学ぶ成人学習者、アカデミック英語の学習者、プロフェッショナル英語の学習者、および若年の英語学習者（6～14歳）の4つのオーディエンスのニーズに合わせた学習指標を開発しました。

この4セットの学習指標はいずれも、4つのスキルすべてにおいて、それぞれの学習者グループが目指すべきさまざまな目標を考慮に入れています。

GSEの詳細、およびGSE学習指標の4セットのダウンロードについては、english.com/gseを参照してください。



The GSE Teacher Toolkit

Find it on english.com/gse

With **Learning Objectives**, **Vocabulary** and **Grammar**, the GSE Teacher Toolkit is a comprehensive, **free** and **fully searchable** online tool.

The GSE Teacher Toolkit can help:

- Plan a curriculum, lesson or assessment
- Map existing materials to the GSE/CEFR or create new materials at the right level
- Create admin reports and give feedback

Illustration by Tang Yau Hoong